

皆様おはようございます。10月も、はや、半ばに至ろうとしております。朝晩本当に寒くなって参りましたが、お元気でお過ごしでしたでしょうか。昼は夏、朝晩は秋です。昼は冷房、夜は暖房というような時期です。20℃もの気温差があるこの頃ですが、どうか健康にご留意ください。

今週の土曜日从小川喜止男先生の奥様そして2人の息子さんと娘さんが来られます。葬儀が終わって間もないこの時ですけれども、疲れが癒され安全に移動することができるようにお祈りください。

収穫の秋、神様が諸々の良きもので私たち人間を喜ばせてくださるそのことに感謝したいと思います。神様はいつも私たちのために良きものを与えて下さいます。

今日はステファノの説教の最後の部分です。神様の愛は変わる事は無いのですが、いつも人の側から神様のその愛を拒み、拒絶し、人が自分勝手に進んできたと言う事、イスラエルの歴史というものはそういうものであるという事は聖書に記してあります。強情で心にも耳にも割礼ない者。かたくなで、心と耳に割礼を受けていない者。いつも聖霊に逆らっていますと50節にありますように、イスラエルと、すべての人間に対する、神様へのかたくなさという、人間の致命的な欠陥が語られています。

「あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。」とありますが、これこそが、私たちが聖書から、歴史から学ばなければならないことです。36節にありましたように、神様は「エジプトの地でも紅海でも、また四十年の間、荒れ野でも、不思議な業とするしを行って人々を導き出しました。」こういうお方なのに、神様が遣わしたモーセがなかなか山から帰ってこないのを見て、

7:39 けれども、先祖たちはこの人に従おうとせず、彼を退け、エジプトをなつかしく思い、

7:40 アロンに言いました。『わたしたちの先に立って導いてくれる神々を造ってください。エジプトの地から導き出してくれたあのモーセの身の上に、何が起こったのか分からないからです。』

7:41 彼らが若い雄牛の像を造ったのはそのころで、この偶像にいけにえを献げ、自分たちの手で造ったものをまつて楽しんでいました。

このように気ままに自分勝手なのが人間であり、自分たちの先祖の姿であるということは、イスラエルの人は皆知らなければならないこと、忘れてはならないことなのに、すぐに忘れ、自分たちは正しい、誤りはない、問題はないと決めつけてしまうのが、人の致命的な欠陥です。

そんな身勝手に、神様を畏れようとしない、恩知らずの人間に対して、せっかく神様が尊い救い主、世の罪を取り除く神の小羊を捧げて下さいましたが、その福音、良きおとずれをも拒絶する人たちが神の民の成れの果てでした。

福音を携えイエス様が来てくださったことそして預言者がそのイエス様の到来を告げて知らせてきたのに人はそれを拒みました。

7:52 いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。

7:53 天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした。」と語ります。

このようにして、またも、神様がお送りになられたステファノに手をかけようとしています。しかしステファノの顔は輝いていました。

6:12 また、民衆、長老たち、律法学者たちを扇動して、ステファノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。

6:13 そして、偽証人を立てて、次のように訴えさせた。「この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。

6:14 わたしたちは、彼がこう言っているのを聞いています。『あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう。』」

6:15 最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた。

そしてイスラエルの歴史を彼は語るのです。アブラハムがすでに高齢になった時、私が示す地に行きなさいとだけ語られて彼を導き出した神様。そしてそれに信仰によって従い、神様の言葉を信じたアブラハムその彼を祝福するために子孫がいなくてもかかわらず子孫の祝福を約束し、誠に困難であるその高齢の夫妻に本当に子供を与え、そしてあらゆる困難から守ってお約束の通りに導かれ、こうして私たちの民族は今日に至る祝福をいただいているということ。しかし族長たちはヨセフをねたんでエジプトへ打ってしまうという悲しい出来事もありました。しかし神様はヨセフを離れずあらゆる苦難から助け出しエジプト王ファラオのもとで恵みと知恵と授け、そしてエジプトを助けそして父ヤコブと族長たち、その先祖のひとりひとりをヨセフを通してエジプトの地で守られたということが語られました。

神様の圧倒的な主権の中で族長も先祖たちも守られてきました。しかしそこにまた次々と試練が遅いばかり、ヨセフのことを知らない別の王がエジプトの支

配者となると、先祖を虐待して乳飲み子を生かしておかないようにしたという、ほんとにまた辛い出来事があります。しかし神様はそこにモーセを遣わされました。モーセもまた弱さを抱えた人間であり、彼の身の上にも色々なことがありましたけれども、時至って再び主はモーセに語りかけられそして語られました。「民の嘆きを聞いて彼らを救うために降ってきた。あなたをエジプトに遣わす」。

この遣わされたモーセに対して、先祖は、「だれが、お前を指導者や裁判官にしたのか」と言って拒んだのですが、そのモーセを神様ご自身が指導者また解放者として遣わされ、「エジプトにいるわたしの民の不幸を確かに見届け、また、その嘆きを聞いたので、彼らを救うために降って来た。さあ、今あなたをエジプトに遣わそう。」と語られてモーセは遣わされました。

そして「この人が荒れ野の集会において、シナイ山で彼に語りかけた天使とわたしたちの先祖との間に立って、命の言葉を受け、わたしたちに伝えてくれたのです。」とある通りの活躍をモーセはしました。

しかし今日の箇所の中で、39節からはこう書いてあります。

7:39 けれども、先祖たちはこの人に従おうとせず、彼を退け、エジプトをなつかしく思い、7:40 アロンに言いました。『わたしたちの先に立って導いてくれる神々を造ってください。エジプトの地から導き出してくれたあのモーセの身の上に、何が起こったのか分からないからです。』

7:41 彼らが若い雄牛の像を造ったのはそのころで、この偶像にいけにえを献げ、自分たちの手で造ったものをまつて楽しんでいました。

先祖たちはこの人に従おうとせず彼を退けエジプトを懐かしく思ったとありますが、あんなにも苦しんでいた所から出ることができたと言う喜びを忘れ、あのエジプトの軍勢が丸腰の民を襲うあの絶体絶命の時、紅海を二つに分けて助けてくださった神様への恩義も忘れ、モーセが山に行って神様とお話をしてしばらく帰ってこないだけでモーセの身に何か起こったか分からないからと、いすぐに神様を忘れて、神様が先に立って導いてくださったのに、その方を忘れて、私たちの先に立って導いてくれる神はただ1人であるにもかかわらず、こう言ったのです。

7:40 アロンに言いました。『わたしたちの先に立って導いてくれる神々を造ってください。エジプトの地から導き出してくれたあのモーセの身の上に、何が起こったのか分からないからです。』

こうして、7:41 彼らが若い雄牛の像を造ったのはそのころで、この偶像にいけにえを献げ、自分たちの手で造ったものをまつて楽しんでいました。

彼らは主の力強さをも、主の恵みをも、自分たちが助けていただいたのも忘れて、自分たちの手で作った者に酔いしれて楽しんでいたのです。人はこういう恩知らずで薄情で自分勝手な存在であるということは、聖書にしっかりと書いてあります。

こういう出来事、民族の歴史は探れば聖書に多く記してあります。聖書を真剣に読めば人の弱さも罪も分かるはずなんですけど、ここでステファノを裁くために登場する立派な先生方はそのことをすっかりと忘れてしまっているように見えます。

7:42 そこで神は顔を背け、彼らが天の星を拝むままにしておかれました。それは預言者の書にこう書いてあるとおりのです。『イスラエルの家よ、／お前たちは荒れ野にいた四十年の間、／わたしにいけにえと供え物を／献げたことがあったか。

7:43 お前たちは拝むために造った偶像、／モレクの御輿やお前たちの神ライファンの星を／担ぎ回ったのだ。だから、わたしはお前たちを／バビロンのかなたへ移住させる。』

生ける神様は、火の柱、雲の柱で民を導き出し、奴隷の地から、モーセを遣わして救い出してくださり、エジプトの軍隊から守ってくださり、それは民族の原体験であり、金看板であったはずなのに、その神様を思い起こし、いつもその神様に祭壇を築き、いけにえと供え物とをもって感謝をささげるべきであるのに、そうせずにモレクの御輿やお前たちの神ライファンの星を担ぎ回ったと書いてあります。もう、どうしようもない不義理な恩知らず者ですね。

「だから、わたしはお前たちを／バビロンのかなたへ移住させる。」

しかしこれは罰と言うよりかその自分たちが作った神々に救う力がなく無能であることを悟らせ、神様に立ち返るべきということを教えるためでした。

7:44 わたしたちの先祖には、荒れ野に証しの幕屋がありました。これは、見たままの形に造るようにとモーセに言われた方のお命じになったとおりのものでした。

7:45 この幕屋は、それを受け継いだ先祖たちが、ヨシュアに導かれ、目の前から神が追い払ってくださった異邦人の土地を占領するとき、運び込んだもので、ダビデの時代までそこにありました。

7:46 ダビデは神の御心に適い、ヤコブの家のために神の住まいが欲しいと願っていましたが、

7:47 神のために家を建てたのはソロモンでした。

7:48 けれども、いと高き方は人の手で造ったようなものにはお住みになりません。これは、預言者も言っているとおりのです。

7:49 『主は言われる。「天はわたしの王座、／地はわたしの足台。お前たちは、わたしに／どんな家を建ててくれると言うのか。わたしの憩う場所はどこにあるのか。

7:50 これらはすべて、／わたしの手が造ったものではないか。』』

幕屋は神殿の原型ですが、そこに神様は契約の箱をお与えになられ、ご自分の臨在をそこに置かれました。そして民と常に共にいて下さいました。そして、先祖たちは、ヨシュアに導かれ、目の前から神が追い払って下さいました。これほどに神様はいつも民と共におられるのに、人は神様からいつも離れようとします。

約束の地を目指して移動しながら進む幕屋の時期が終わり、約束の地に定住し、この神様にいつも人が向かい、感謝と礼拝をささげるための神殿を立てようとしたのがダビデでした。

「天はわたしの王座、／地はわたしの足台。」とおっしゃるお方、世界すべての中に満ちておられるお方のために人間がどんな家を建ててそこに憩い休んでくださいと申し上げることができるのでしょうか。神様は全てご自分の手で作られたものであってその被造物でもって神様のお住まいを作るといっても、それはしょせんおままごとのようなことで、神様お入れすることができるような立派なものをどうやって人間が作ることができるのでしょうか。しかし人は神様を忘れずに、人が神様を神殿によってつなぎ留めておくのではなくて、いつも人と共にいて下さる方に人間がいつも繋ぎ止められているようにと神殿が造られたのですが、イエス様の時、その神殿に集う人たちがどのようなものであったのかは、私たちがよく知るところです。

7:51 かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。

7:52 いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。

7:53 天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした。」

正しい方が来られることを預言した人々を殺し、今やその正しい方が来られたそのイエス様を裏切り殺し、その神様の救いに気づいてくださいと孤独にも必死に語るこのステファノをも窮地に陥れ、恐ろしい、この人の連綿とした、鎖のように長く重く、冷たいその罪の大きさを感じます。

この人間の深い問題。この牢獄から誰が私たちを助け出してくださるのでしょうか。

コロサイ 1:13 御父は、わたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移してくださいました。

1:14 わたしたちは、この御子によって、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。

かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。

どうしたら、この深い罪から、人を救い出すことが出来るのでしょうか。

罪の中からの救い。与えられた良き神殿をも律法をも大切にできない人間。神をすぐに忘れ、苦役の地から導き出してくださる方をすぐに忘れて偶像をつくり自分勝手に楽しみ進もうとする民、「聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようと」せず、「この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えてしまう」神を冒涇する人間に対して、神様はその深い罪をイエス様に負わせることによって救いをもたらしてくださいました。

モーセが伝えた慣習と律法をけなしているのは他ならない人間の罪であるにもかかわらず、イエス様はその罪を一人犠牲になって背負ってくださいました。そして今度はステファノ手にかけてしようとしているのです。人が知らなければならない罪。認めて神様に懺悔すれば救い主によって赦される罪。しかし人はかたくなで、「かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。」

聖書を謙遜な心で読み、語られていることを自分のこととして読むのならば、その向こう側に神様の恵みと赦しが光っているのが分かるのですが、それを拒むならば、良き知らせを得ることが出来ません。

先祖の罪の性質を明らかにしそしてそれが故に神様が与えて下さった救い良い知らせを伝えようとしているステファノ、神のしもべに対して、相も変わらず拒絶して亡き者にしようとしている人々は、ステファノの言うことを聞いて激しく怒り、ステファノに向かって歯ぎしりをしました。

かたくなな、心の耳に割礼を受けていない人たちはこのようにいつも聖霊に逆らい、神に、真理に逆らい、滅びに向かわなければなりません。

7:54 人々はこれを聞いて激しく怒り、ステファノに向かって歯ぎしりした。

7:55 ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、

7:56 「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」と言った。

7:57 人々は大声で叫びながら耳を手でふさぎ、ステファノ目がけて一斉に襲いかかり、

7:58 都の外に引きずり出して石を投げ始めた。証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。

これに対して、ステファノは聖霊に満たされ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見ていました。彼は迫害の中にも平安と喜びがあり、神の守りの中にありました。

「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」

人々は自分たちが冒涇者として断罪して殺したイエスという方が神の右にいるということを聞いて大声で叫びながら耳を手で塞ぎステファノめがけて一斉に襲いかかりました。

どうしてもそれでもなおイエスキリストを受け入れることのできない人たち。イスラエルの民の宗教を指導する人たちがこの体たらくだったのでした。本当にとことんに頑迷で、心と耳に割礼を受けていない、神様の真実を受け入れることのできない鈍感で拒絶する、自己中心で侮る心を持っている、反逆の心を持っている、このいわば憎たらしいような頑なな人間のために、神様が与えて下さったのが、十字架のイエス様でした。

神様がそのあなたのためにと、救いの助けを送ってくださったのに、人はこのように大声で叫んで耳を手で塞いで激しく怒って歯ざしりして神様の救いのご計画に反抗するものであるということに、改めて愕然とした気持ちになります。

この神様から遣わされた預言者めがけて一生に襲いかかる都の外に引きずり出して石を投げ、そして殺してしまうそれが人間の罪深さであり、この数限りない、繰り返された人間の誤りは、未来永劫はつきりと聖書に書き表されています。そして悔い改めない人をイエス様を送ってまで助けようとされたされた神様の、助けたいとのすさまじい、熱き熱き執念も、モーセや預言者の派遣から始め、幕屋や契約の箱、神殿や律法という形で度重ととない出来事として書かれています。

御心に何度も何度も反抗する人間はどうやって救われるのでしょうか。

59 節 7:59 人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、「主イエスよ、わたしの霊をお受けください」と言った。

7:60 それから、ひざまずいて、「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。

人々が一生を投げつけている間ステファノは「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で叫び、そして眠りについたとあります。

ここでもイエス様の十字架の祈りを思い起こします。

「父よ、彼らは自分が何をしているか分からないのです。どうか赦してください。」まさに人を救うのはこの愛と犠牲によってでしかないということが分かります。ほんとに頑迷で頑でどうしようもない人間のためにどれだけの命が犠牲にならなければならないのでしょうか。そして罪の救いのための執り成しが、赦しの執り成しがどれだけ捧げられれば人は正気になるのでしょうか。

イエス様の道をたどるステファノには主イエス様は近くおられました。ステファノの目には、はっきりと神様とイエス様とが移っていました。

この迫害のむごたらしい場面の中にあってもステファノは守られて輝いていました。喜んでいました。そして聖霊によって進んでいました。自らを苦しめ傷つけるものを、命を奪うもの恨まずに、イエス様をただ見上げてイエス様のお守りの中、最後まで信仰を貫きました。

私たちもまた困難の中にあっても、イエス様の道を進み、そして困難の中にも目を挙げて、天を見つめれば神の栄光と神の右に立っておられるイエス様がそこにおられることを信じてこの道を進み続けていきたいと願うものです。